

村落構造の研究において、まず第一にその地域の住民が何で生活しているか、その地域の基礎構造といわれる経済構造の分析が必要であることは云うまでもありません。この場合、農業生産の株式が重要なわけですが、農業地帯から山村地帯になるにむながい、林業が重要性をもつてきます。ところでこれを村落を形成している農家についてみると、農業を中心とする生産構造から林業にかなりウエイトをもたせた農家の生産構造がみられるようになるわけです。林業の研究機関におります私どとつては、農家の所有經營している林野が何に規定されているか、といった問題は農家林業の生産力の発展といった実践的目的を考える場合に重要な要素となります。

そこで、農家林業を規制する要因について二、三の問題を述べたいと思いますが、林業

族労作的林業生産」という意味で使われていますが、自家林業は「自家一家庭としての農業生産を主たる生活の場としている個別經濟」である山林所有者が営むところの林業生産と規定でき、これに準じて言えば「自家所有に係る林業生産」ということができます。ところで、農家経営は一般に生産過度と消費經濟が未分離のままで混在して、いわゆる家庭形態をとつていることは改めて云うまであります。この生産過度だけについてみると、水田地帯などは比較的單一な經營形態ですが、普通山村地帯では、水稻作、麦作などの耕種部門、乳牛、養豚など養畜部門、桑葉部門、或は農産加工部門などがあり、この外林業部門がつて、多岐の生産部門から構成されています。こうした個別經濟の中で

所有が土地生産業である林業に決定的に作用します。(2) 経営主体の意識水準などと共に(3) 住家の家族構成との動態が挙げられます。・ 住家の家族構成が、林業生産に作用する影響には、二つの側面があります。すなわち労働者単位としての家族人員と消費者単位としての家族人員であります。労働者単位(=Arbeiterfamilie)とは自家の経営用林従事による能力数であり、消費者単位(=Verbraucherfamilie)とは家族構成員を男女別、年令別に、消費量を換算したものであります。

この家族労働力が林業生産の性格に影響を与えるのは、家族労働力と雇用労働力の集約度限界の差にもとづいているわけで、すなわち雇用労働力の場合、限界単位の労働者がな

農家研究の一つの問題

農家林業について

(東京) 吉沢四郎

卷之三

卷之三

林業にて

卷之三

の問題類

卷之三

問題に之にては山本研究員等のが研究室の

（舊本作「舊別經首」）本丸北門北側繩渡門
前之土塁上，西向名所の粵直之處。一作「粵直」。

卷之六

の本筋は、西開墾地のほかに北或經濟的な

卷之三

卷之三

産力と雇用労賃」とが等しくなる点まで投入されるが、家族労働の場合、それはチャヤノーフのいう「労働消費均衡論」すなわち生産の

少を指摘できます。

との比較によつて決定されるわけです。次に消費者単位Ⅳは、消費水準と関連するが、消費単位の増減が林業生産に大

として家族構成、家
族愛護が大きな要因
として挙げられます。
ところが、「物入り」

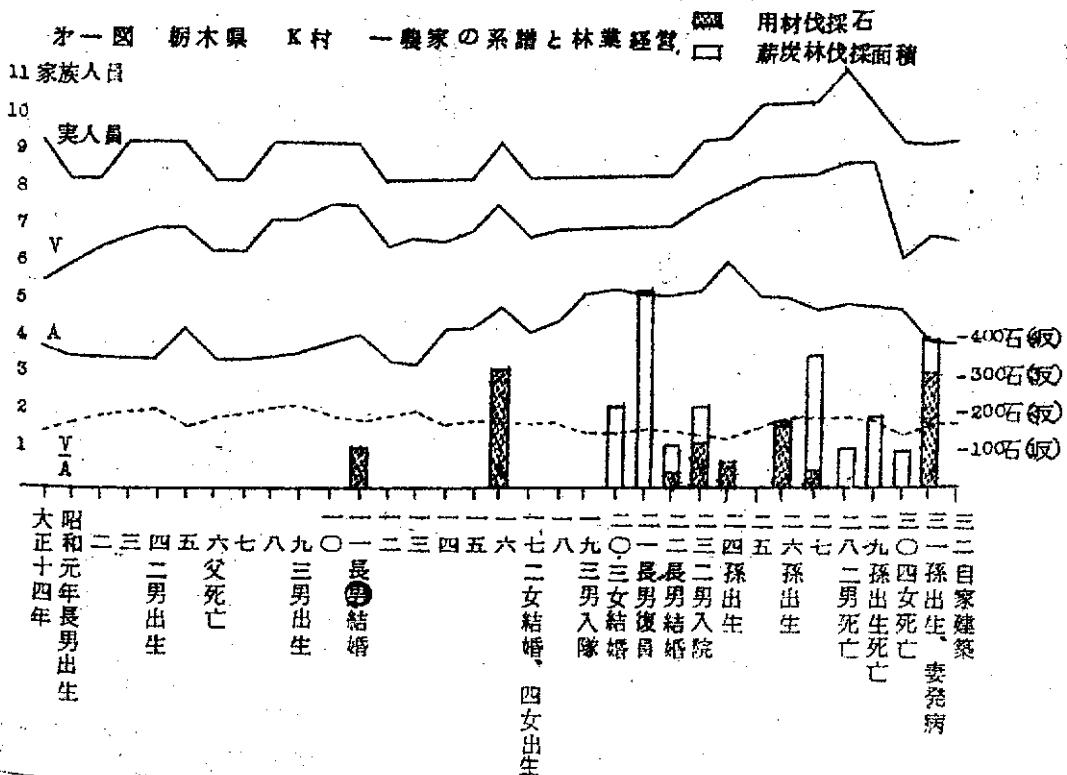
きく影響します。Aが大になれば、それだけ労働力が大きくなり、生産規模を拡大するかまたは集約度を増進する契機となります。一般にわが国農家では、土地の増大は実質的に不可能だから、土地から離れて雇用機会をもつか（農民離村、出稼ぎ）、生産のための労働投入の集約化がみられます。Yの極大時点で出現する家族構成の変化期、すなわち結婚、嫁入り、分家、出生などいわゆる「物入り」時期に、家計が擾乱され、この時期に林業部門の産出への依存度は高くなり、林業生産物は農家経済の安全弁的機能を果すようになります。

として家族構成、家庭變動が大きな要因として挙げられます。ところが、「物入りの在り方はその農家ののわかれた社会的地位」。その地域の生活様式によりかなり異なるわけで、林業生産力の発展といった сторо
ローガンも、こうした側面から、すなわち生活改善といった問題とも関連していくようになります。

またその部落に入

なります。林業が長期的生産期間を必要とし、しかも収穫時期の巾がかなり広いところから、農家の中で備蓄的性格をもち、農村家族の浮沈の周期的律動期に役立つようになると考えられます。オ一図は、栃木県上村で調査した農家の山林伐採の実態ですが、戦前の伐採が用材林伐採を主とし、しかもY、Aの極大の時に伐採され、これらの伐採はいづれも子女の嫁入りという臨時の支出の時期に伐採されています。戦後の伐採にみられる特長としては、昭和三一年の自家建築用材の伐採をのぞくと、伐採回数の増加と一回当たり伐採量の減

会共有林があるかないか、その利用方式がどうなつているかということが、個別農家の林野經營方式に大きく影響しているわけで、村落構造との関連が重要ななります。



流通過程で市場をめぐる人間關係、林業集團としての森林組合、研究会など機能集団が、やはり農家林業を規制する要因として働くでしょうし、そしてこれらの要因がその村落構造と意味連関しているだけに、林業技術の発展だけでなく、更に広い社会經濟的な検討の必要を痛感しております。